

---

わたしは、幼い子どもであったとき、幼い子どものように語り、幼い子どものように考え、幼い子どものように思いを巡らした。だが、一人前になったとき、幼い子ども<sub>の</sub>ことはやめにした。

われわれが今、見ているのは、ぼんやりと鏡に映つてのもの。「その時」に見るのは、顔と顔を合わせてのもの。わたしが今、知っているのは一部分。「その時」には、自分がすでに完全に知られているように、わたしは完全に知るようになる。

だから、引き続き残るのは、信仰、希望、愛、この三つ。  
このうち最も優れているのは、愛。

—コリント人への第一の手紙13章11〜13節—

---

2015年 春

年々不精者になって、年賀状も省略し、だから減少し、楽でいいなあと決め込んで、それでも省略できないのは、教  
え子の卒業生からの賀状。

「今年もよろしく願います。毎年先生のお言葉を頂いて励みになり、一年を健康に過ごせております。有難うご  
ざいます。」とあり。気の利いたことなど何も言った覚えはないが、これもいまだに続く年に一度の賀状ホームルームか。  
ご主人と本人の名前の後に、四人の名前が連なっている。女の子・女の子・男の子・男の子。9歳・7歳・6歳・1歳。  
ドミニコで初めて担任した生徒。

「今年も新年のごあいさつができること、嬉しく思います。」と、これは今年の賀状。10歳・8歳・7歳・2歳。今年  
は全員の写真付き。長女は母親そっくり。親の愛情をたっぷり受けた顔、顔、顔、顔。…ついに堪えきれなくなり、家  
内の了解を得て、子どもたちに食わせなさい、と菓子箱を送った。本人勝ち気なので、すぐに現地（郡山）の菓子をお  
返しに送ってきた。…まいった。

愛情をいっぱい受け取れば、愛情を大切に  
する大人になる。

(国語科 高橋 覚)